

井上眼科 だより

2017.04
vol.100

Inouye Eye Hospital NEWS

西葛西・井上眼科病院

患者さまが安心できる病院づくりを目指してー

西葛西・井上眼科病院では、外来の待ち時間の長さで不安に思われる患者さまを減らすため、積極的な声かけを行うなど、温かみのある取り組みを行っています。また、強みである網膜硝子体診療については、医師を増やしたことで大学病院のような症例検討が可能となりました。そのほかの疾患でも、外部から招いている各専門外来の医師との情報交換により、きめ細かい診療を実現しています。「専門外来も豊富なので、あらゆる眼疾患に対応できる病院であることと同時に地域に根ざした‘地元の眼科病院’として、安心して診療を任せいただけるよう務めています。また、充実の設備がそろっていることも、眼科専門病院の強みです」(井上順治院長)

当院は、東東京から千葉方面まで広くカバーできる立地



「手術に不安を感じる患者さまに、安心してもらえるような細かいケアを心がけています」(井上順治院長)

と、全国トップレベルの網膜硝子体手術実績を生かし、糖尿病疾患などにおいても、地域の内科との連携を深めていくことが大事だと考えています。また、小児眼科を専門に診療を行っていることも、地域の患者さまや、開業医の先生方に知っていただくよう、はたらきかけを行ってまいります。

「患者さまに『この病院にすれば間違いがない』という『安心感』をもって受診していただける病院を目指していきたいですね」(同院長)

このたび、西葛西・井上眼科病院が、「医療福祉建築賞2016 準賞」を受賞いたしました。本賞は、建築の質が高いだけでなく、利用者の快適性やスタッフの使い勝手といった視点も合わせた総合的な評価による賞です。詳しくは次号の井上眼科だよりにてお伝えいたします。

大宮・井上眼科クリニック

井上眼科病院グループでは、患者さまにご満足いただける病院・クリニックづくりのため、患者さまアンケートを実施しています。

今回は、大宮・井上眼科クリニックの患者さまにアンケートのご協力をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

Q. 実際に受診してみた感想をお聞かせください。



50代 女性

A. 広くて駅から近いし、利便性がよい。治療は長くかかることもあるので、駅に近く設備が整っていてありがたいです。スタッフの方々もとても親切でした。



70代 女性

A. 住まいより近くて、本院(井上眼科病院)と変化ないサービスを受けられてうれしいです。



60代 男性

A. 院内がきれいになっていて、安心できます。井上眼科病院グループのクリニックなので、安心感があります。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。当クリニックは、まもなく開院一年を迎えます。地域の皆さまの眼の健康を守る身近なクリニックとして安心していただけるよう、これからも全力をつくしてまいります。



川添賢志 院長

ご意見・ご感想を
press-agent@inouye-eye.or.jp
までお寄せください



発行：医療法人社団済安堂 井上眼科病院
www.inouye-eye.or.jp
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4丁目3番地 ☎03-3295-0911

井上眼科だより

Inouye Eye Hospital NEWS

2017.04
vol.100



医療法人社団 済安堂 理事長／井上眼科病院 院長 井上 賢治

創刊100号に寄せて。

1986年8月に第1号の「井上眼科だより」を発刊してから30年が過ぎ、本号で100号を迎えました。発刊当初は病院の施設案内を多く紹介しておりましたが、最近では疾患の説明、目の健康に関する情報、西葛西、大宮の各施設での新しい試みを紹介する記事など、少しでもみなさまのお役に立てる、幅広い情報を掲載するよう努めております。

また、当院を卒業し開業された先生方をご紹介

する「同門会だより」は、2012年の81号よりスタートし、本号で19回目となりました。全国でご活躍されている同門会の先生方が、各施設でご尽力されている姿や、新しい試みなどを紹介しています。

「患者さま第一主義」の理念のもと、患者さまに病院のことや病気のことをよく知っていただき、みなさまにご満足いただけるよう願いをこめて続けてまいりますので、これからもご愛読いただければ幸いです。

井上眼科病院グループ

Advanced medical care for all generation

INOUYE EYE HOSPITAL since 1881

井上眼科 だより 100号で振り返る当院の取り組み

患者さまに、当院や眼疾患についてよく知っていただき、治療に役立てていただける誌面を目指しています。



【1994年4月 33号】

最新の治療法紹介と、インフォームドコンセントの重要性

1881年の創立以来、最新の眼科医療を取り入れてきた当院。その際は本誌を通じて患者さまへの説明と同意(インフォームドコンセント)の重要性を訴えてきました。1999年の近視手術センター立ち上げ時は、レーシック手術の術式や適応性について細かく説明した上で、医師への相談が最も重要であると伝えています。現在も、最新の治療法や説明会情報を発信するなど、患者さまが納得して治療を受けられるようお手伝いをしています。



【2015年7月 93号】

眼科医の診断による早期発見の大切さ

緑内障、糖尿病網膜症、黄斑変性、など、「眼の成人病」といわれている病気は、「早期発見・早期治療」が大切で、これは今昔通して当院が最も訴えたいキーワードのひとつです。現在、お茶の水・井上眼科クリニックでは、眼の総合病院ならではの充実した検査内容をもとに眼科専門医が診断する「眼科ドック」を行っています。定期的な検診で、早期発見が難しい眼疾患の治療に役立っています。



【2015年10月 94号】

「眼の相談室」から「ロービジョン外来」へ

井上眼科病院では15年ほど前に、患者さまのニーズに沿ったケアを行うことを目指して「眼の相談室」を設けました。現在も「ロービジョン外来」として、視覚に障害を持つ患者さまのニーズ分析、視機能の再評価、障害者手帳などの書類作成、支援制度などの情報提供や補助具の処方など、患者さまが自立して、できるだけ快適な生活を送れるよう、グループ全体でロービジョンケアに取り組んでいます。



【2011年7月 特別号】

「井上眼科病院災害支援チーム」結成

2011年3月に発生した東日本大震災の約2ヵ月後から3回にわたり、井上眼科病院災害支援チームが、気仙沼湾に浮かぶ離島・大島で支援活動を行いました。少しでも多くの患者さまのニーズにこたえられるよう、1,000人以上の島民の方々の診察を行いました。また、三宅島など眼科のいない地域に当院の眼科医を定期派遣する活動も行っています。

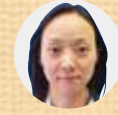
専門外来紹介

小児眼科外来

(医師紹介覧)
まだまだいます!
井上眼科病院グループ
小児眼科担当医師紹介



鶴岡 三恵子 医師
(お茶の水)



庄司 治代 医師
(お茶の水)



小西 寛子 医師
(西葛西)



稲川 容子 医師
(西葛西)



野口 圭 医師
(大宮)



田中 里歌 医師
(大宮)

こどもたちの未来のために、わたしたちができること

早期発見・早期治療が重要です

お茶の水・井上眼科クリニックにて/
左から山本智恵子医師(お茶の水・大宮)、
永野雅子医師(お茶の水・西葛西)、
井上賢治理事長



生まれてすぐの赤ちゃんの眼は、ぼんやりとしか見えていません。そこから毎日、家族の顔や身の回りにおもちゃなどを見ることによって、見る力(視力)が育っていきます。視覚の発達時期は6~8歳ころまでといわれており、この視覚発達の過程で何らかの問題が生じ、視力の成長が途中で止まっても、本人は見えにくさを意識することはありません。

視覚の発達過程に生じる問題は、左右眼の度数の差(不同視)や、目線のずれ(斜視)など様々ありますが、年齢が大きくなるにつれ訓練や治療の効果は出にくくなります。そのため、問題を早期発見し、早期に治療を開始することが重要です。



子どもの眼を守る、頼れるパートナーとして—

西葛西・井上眼科病院小児眼科外来 壁画前にて/
左から中村嘉代医師(西葛西)、
大井田紀和医師(お茶の水・西葛西)、
井上順治院長

乳幼児の検査・診察は大変難しく、飽きやすい子どもに根気強く接し、視機能を見極める技術と経験が必要です。当院では、経験を積んだ医師と眼科検査の国家資格を有する視能訓練士が小児診療に取り組んでいます。また、当院の専門外来の医師と連携することにより、さまざまな眼疾患の治療も行っています。

お茶の水・井上眼科クリニックと西葛西・井上眼科病院では、小さなお子さまとご家族が院内で快適に過ごせるよう、小児専門の外来スペースを設けています。子ども同士が遊んで走り回ったり、診察中に泣いたりしても、他の外来の患者さまに気兼ねすることなく、安心して待つことができます。

わたしたち、井上眼科病院グループは、子どもたちの眼を守る心強いパートナーとして、これからも信頼できる小児眼科医療を提供してまいります。

新副院長のご紹介

井上眼科病院



あまの しろう
天野 史郎 医師

本年4月より井上眼科病院の副院長に就任させていただきます。天野史郎です。私は13年ほど前から角膜外来を担当し、角膜移植などの手術を多数執刀してまいりました。今後も最先端の診療を、心を込めて実施していきたいと考えております。



もりやま りょう
森山 涼 医師

この度、副院長に就任させていただくことになりました。白内障診療および手術を中心に担当させていただきます。患者さまにはご不便をおかけすることもあるかと存じますが、今まで以上に良い医療を提供できるよう研鑽を積んでまいりますので宜しくお願い申し上げます。

お茶の水・井上眼科クリニック



ひが りさこ
比嘉 利沙子 医師

本年4月より副院長に就任させていただきます。大学病院退職後、2006年より井上眼科病院に勤務しております。専門分野は白内障、屈折矯正手術で、2014年に屈折矯正外来を立ち上げ、さらに力をいれております。今後も、スタッフと一丸となり、安心、信頼のある診療を心がけていきます。

2017年4月1日より、
新体制でスタート
いたします。

新刊本のご案内



視力0.1でも
豊かな生活を送る

「目の健康を守る本」

著者:井上賢治
幻冬舎
価格:1,296円(税込)

日本の目の健康と、未来の社会のあり方

目の病気、視力低下で悩んでいるすべての人に知ってほしい。「家庭でできるロービジョンケア」とその理想形「ユニバーサルデザイン」を持つ可能性を徹底解説。

全国の有名書店にて発売中!

クリニック情報

吉田眼科

〒263-0043 千葉県千葉市稲毛区小仲台 6-15-7 TEL : 043-207-8585
ホームページ <http://www.ygc.jp/index.html>



全国で活躍中の井上眼科 OB の先生方を紹介!

吉田眼科

吉田 元 院長
1997~2000年 井上眼科病院在籍

今回ご紹介するのは吉田元先生。院長を務める吉田眼科は主に白内障手術を強みとしている。当院在職中は、故井上治郎医師と徳田芳浩医師のもと、あらゆる先端技術を目の当たりにしたそうです。「他の医院の先生とお話すると、井上眼科病院では当たり前前のことが他の医院ではまったく当たり前ではないことがわかり、驚くこともありました」(吉田先生)

開業した現在になって、医局での医師同士の活発な意見交換



緩やかな曲線の外観



吉田院長(右)と当院の井上(左)。

や専門外来医師への相談ができる環境にありがたみを感じることもあったと話す。

「当院は、日帰りの白内障手術に特化した施設で、角膜形状解析装置も複数そろえ、多焦点眼内レンズやトーリック眼内レンズを使用する症例が4割を超えるといったように、最新の技術の導入にも力を入れています。これからも、常にその時代の最高の白内障手術を追及しつつけていきたいです」(吉田先生)